



再選を決め花束を受け取る小池知事=5日午後8時過ぎ、新宿区内

一方、他の候補者は、小池知事の都政運営やコロナ対策への批判とともに、五輪の中止や再延期、都再発行による現金給付、社会保障の充実などを訴えたが、コロナ禍の中で埋沒した。

投票締め切りと同時に当選が確定となつた小池氏は午後8時過ぎに新宿区内の選挙事務所に姿を現した。密集を避けるため、報道陣を絞つて行われた会見では、コロナ禍を理由に行われた会見では、コロナ禍を理由で「東京大改革を進めてきた4年間にに対する支持を感じる」と語った。

コロナ対策については、公約に掲げた東京版CDC疾病対策予防センターの開設やテレワークなど「新し

**都政新報購読  
お申し込みは  
5330-8781**

都政新報電子版 [www.tosei-d.com](http://www.tosei-d.com) に今すぐアクセス

## 都知事選投票開票

# 小池氏圧勝で再選

コロナ禍で現職の強さ際立つ

任期満了に伴う東京都知事選挙が5日に投開票され、現職の小池百合子氏(67)が次点以下に大差をつけて再選を果たした。

選挙戦では、収束が見通せない新型コロナウイルス感染症や、感染拡大の影響で延期となつた東京五輪的是非に加え、小池都政1期目の評価などが争点となつた。

小池氏は選挙期間中、「密集することを避けるため」として、街頭での選挙活動は行わず、インターネットによる選挙戦を開催。選挙公約には、コロナ対策に加えてデジタル化の推進や感染症と風水害・地震などの複合災害対策、子育て支援・女性活躍、行財政改革などを掲げた「東京大改革2・0」を打ち出した。

一方、他の候補者は、小池知事の都政運営やコロナ対策への批判とともに、五輪の中止や再延期、都再発行による現金給付、社会保障の充実などを訴えたが、コロナ禍の中で埋没した。

延期となつてある五輪に関する課題。「まずは感染症対策が最大の課題。費用を圧縮しながら簡素化していくか、都民、国民の納得がいだける形で進める」と語った。

2期目の都政運営では、これらに加えて財政運営も大きな課題となる。都の財政調整基金残高はこれまでの1兆円以上の新型コロナ対策費によって1千億円を割り込んだ。小池氏は事業の効率化や見直しを進めることを示しているが、今後も新型コロナ対策で歳出増が見込まれる一方、今年度以降の法人税の減収は必至の状況。また、五輪の延期に伴う追加費用も数千億円規模で見込まれ、難しい財政運営のかじ取りが求められる。

号外

詳しくは7日付の都政新報で



発行所 都政新報社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-23-1 TSビル

（総務・読者） 03-5330-8781

（企画広告） 03-5330-8784

（編集） 03-5330-8786

（出版） 03-5330-8788

（ファクス） 03-5330-8808

購読料 月1,900円（税込）

毎週火・金曜日発行

ただし、祝日は休刊

©都政新報社 2020